

新宿区立漱石山房記念館 令和4年度第1回運営学術委員会

議事概要

開催日：令和4年8月24日(水)書面開催（意見提出等締切9月9日）

出席者：14名

半田昌之会長、中村廣子副会長、大木志門委員、大木真徳委員、佐藤裕子委員、松下浩幸委員、山岸吉弘委員、鈴木達也委員、山口進委員、吉川友子委員、波多江誠委員、松澤亮委員、守谷賢一委員、小泉栄一委員

欠席者：1名

北見恭一委員

事務局：村上喜孝（文化観光課長）、北村こころ（文化資源係長）、久米美弥子（文化観光課学芸員）、山田郁也（文化観光課係員）

- 議題：
- ・令和3年度事業実績について
 - ・令和4年度事業進捗状況について
 - ・令和5年度事業スケジュールについて

議事要旨

■令和3年度事業実績について

- ・2年以上にわたるコロナ禍での博物館運営にあたり、感染予防対策をしっかりと実施しつつ、社会基盤として記念館が果たすべき役割を最大限果たすことを強く認識した事業の計画がなされ、職員の努力と工夫に基づく実際の事業展開が行われたことが窺われ、その成果は高く評価できる。
- ・コロナ禍の影響が続き、利用者の施設への来館意欲にもある程度の抑制意識が継続している状況の中で、学芸員を中心とする館職員の調査研究の成果を発信する企画展示を開催し、入館者にも手応えのある成果を残せていると思われる。
- ・入館者数はほぼ前年度並みのため、コロナが続く限りはこの水準だろう。YouTubeを利用した展示解説等の試みや学校との連携が一步踏み出せたのは素晴らしい。それぞれ費用対効果を見ながら発展的に継続してゆけることを望む。特に学校との連携は広がっていくといいと思う。
- ・小中学生の利用者が2.6倍となり喜ばしい。今後も学校向け等の案内発信や子ども向けイベント・講座等を期待する。
- ・レガスマつり「漱石クイズチャレンジ」（小・中学生対象）に272人の参加があった。漱石文学への興味関心の増進と漱石山房記念館の周知ができ、来館につながるイベン

トであると今後も期待する。

- ・ 記念館主催の展示会やイベント、区主催のコンクール等、いずれも充実した事業であり、素晴らしい。特に、「教育活動支援」の活動は意義深い。
- ・ 文学さんぽの一部や俳句講座等、いくつかの参加体験型のイベントが、コロナの影響で中止とせざるを得なかったことは致し方ない結果であったが、感染予防対策を講じながら 11 校の見学を受け入れることができたことは、今後への見通しをつけることができるきっかけとなったのでは。
- ・ コロナの度重なる感染拡大の中で令和 3 年度の 4 回の展示会を開催され、あいにく多くのイベントが中止となったものの、映像配信できたものがあったのは良かった。一度は延期となったふみのしおりの朗読会「木曜会の人々」も、臨時休館スタート前日に開催でき、幸運だった。
- ・ 博物館での展示だけでなく、コロナ禍で休館を強いられたことをきっかけに充実を図ってきたオンラインを活用した展示解説やギャラリートークなどのプログラムも、創意工夫の跡が見て取れる進化を遂げつつあることが窺える。
- ・ 通常展・特別展とも、オンラインギャラリートークや YouTube での動画配信により、コロナ禍で来館できない人へも伝える配慮がなされている点を評価する。
- ・ 動画配信に取り組んでいるのはよいが、現状の視聴回数は物足りない。アピールの方法をもっと検討できないか。
- ・ 配信期間を長くできないか。権利関係等の事情であればやむをえないが、もう少し長い期間見られるようにしてもいいのでは。
- ・ レガスちゃんねるの枠組みでの配信が妥当か検討の余地があるのでは。たとえば「漱石」のブランドを前面にたてた独自のチャンネルを立ち上げ、定期的に(週 1 回など)配信してもいいのでは。特に 5 周年記念のトークイベントなどには多くの視聴者を集めるポテンシャルがありそうなものが多く、この機会に検討してみてもいいのでは。
- ・ 寄贈、寄託によって記念館としての調査研究にとっても重要な資料を受入れることができたことは、学芸員の日常的な調査研究をはじめとする学芸業務に対する信頼の証でもあり、記念館の博物館としての事業基盤が充実しつつある点として評価できる。
- ・ 購入資料については、個々の資料の記念館が所蔵する意義や価値が適切に検討され、妥当な価格で購入されていると認められる。
- ・ 既に所蔵されている資料について、保存と活用を勘案し、優先順位に基づいて複製資料の制作に取り組んでいることは、記念館の活動の活性化に向けて有意義なことと思われる。
- ・ 貴重な資料をご寄贈くださった方々に感謝するとともに、資料の購入については、漱石関係学識経験者・学芸員・文化財関係等の意見も取り入れて積極的に検討することを望む。

■令和4年度事業の進捗状況について

- ・開館5周年を迎え、館の運営体制も安定しつつあるように思われるが、引き続き、基本的な調査研究、資料保管とともに、幅広いターゲットに向けた情報発信活動の充実に努めていただきたい。
- ・現在も感染状況は悪いままだが、国は今後行動規制などをせずにウィズコロナの方針で国民生活を回していくつもりようだ。区の方針もあるだろうが、館としても次第にコロナ以前の運営に戻していくことを検討する時期ではあると思う。アフターコロナを見据えた今後の工程表をどのように検討しているか、教えてほしい。
- ・現在は2階の常設・特別用展示エリアに警備員が1名直立不動で立っている。今回たまたま他に見学者なく、個人的には集中して気にしないが、警備の立ち位置は映像鑑賞のすぐそばであるため、中には落ち着かない人もあるでは。時期が来れば警備の方だけでなく、ガイドもまた常駐して、質問対応を行うようになるのか。
- ・コロナ禍の影響を受けながらも、展示・オンライン配信プログラム・イベント等、意欲的な計画が示され、順調に事業が進捗しているように思われる。
- ・令和4年度も手紙、道草と展示会は着実に進み、研究・足固めがされている。それら渋めのテーマの後には、「草枕の世界」で視覚に訴え変化があった。改めて漱石の言う、美しい感じが残りさえすればよいという『草枕』について、それは確かに達成されていると肯定する反面、その文体、漢文その他引用など、芸術論議などの箇所においてこんなに読みづらい作品だったと気づいた。英語訳のほうが判りやすいのではと想像してみたり。現代語訳があると嬉しい。
- ・「《通常展》夏目漱石「草枕」の世界へー絵本・絵巻・挿絵にみる「草枕」ー」は久しぶりにリラックスして鑑賞できた展示で、描く人によって別の本（別世界）を見ているように感じられた。漱石の幅広い世界観が覗けたようであった。
- ・令和3年度と比較して、令和4年度はより教育活動支援の幅が広がっており目をひいた。加えて、近隣の小中学生が課外活動等で訪問する機会が実現すれば、更に地域の記念館として周辺住民に浸透すると思われる。
- ・開館5周年記念特別展「夏目漱石と芥川龍之介」に期待する。
- ・オンライン等、来館しない利用者への情報発信の成果もしっかりと記録し、データ化することで、入館者の実数だけでなく、博物館活動全体としての情報発信の成果を測り、記念館事業の評価に反映できる体制を整備するなど、今後の中長期的な博物館としての事業に対する自己点検・評価体制の整備に取り組んでいただきたい。
- ・今後Twitterやインスタグラム等の活用の検討はどうか？各地の文学館がそれぞれ工夫しており、若い文学館利用者に効率よく情報を届ける手段のため、今後体制を整えていくといいのでは。
- ・資料の複製・デジタル化・アーカイブ化を進め、資料情報・調査研究成果の発信・活用の進展を期待する。

■令和5年度事業スケジュールについて

- ・令和5年度にも興味深いテーマの展示会が予定されているようで、とても楽しみにしている。
- ・小・中学生向けに夏休みの一定期間、「漱石を知るコーナー」「漱石質問コーナー」といった自由研究や調べもの学習の支援コーナーを設けることを検討してほしい。これにより、新宿区の子どもたちに世界的な文豪・夏目漱石が新宿区で生誕し終焉したこと、かつての「漱石山房」では多くの作品を生み出した執筆活動が行われたほか、木曜会で多くの文学者が集ったところであること、漱石終焉の地となった場所に漱石山房記念館が建設されていることを知って、次世代につないでほしい。
- ・企画展のアイデア出しは毎回大変かと思われる。文学館の展示はどうしても人物や作品中心になりがちだが、例えば日本近代文学館では「教科書のなかの文学・夏目漱石」のような展示を行っており、このようなユニークなテーマで漱石を再考するという企画があってもいいのでは（温泉・旅・鉄道・絵画・動物・明治のファッションなど）。特に若い層に記念館に来てもらうには、そのような切り口も必要かと感じる（夏休みには10代向けの展示内容にするのも一案と思う）。
- ・研究者の先生方の講演もいいが、大学生（学部生）のゼミ発表や卒論を元にした発表を学生自身に行ってもらうのも新鮮でいいのでは。コンクールのようなものではなく、各大学の先生方から学生を推薦してもらい、一般の方に聞いてもらうというものでいいと思う。学生にとってもいい経験になるだろうし、一般の聴取者にとっても新鮮なのでは。

（事務局回答）

- ・SNSを活用した情報発信については、現在のところ指定管理者（新宿未来創造財団）において、メールマガジンとHPブログ、新宿未来創造財団公式フェイスブックの発信を中心としており、館独自アカウントでSNSによる情報発信を行わない方針です。上記に加えて、区の公式ツイッター・フェイスブック等による発信を検討し、情報発信方法の拡充に努めます（インスタグラムは未導入）。
- ・動画配信については現在、配信する動画は外部委託により制作しており、配信まで時間を要しているところですが、今後はより迅速に配信できる制作方法を検討します。また、これまで新型コロナウイルス感染症の影響で来館できない方向けに展示解説等の動画を作成してきましたが、今後は来館者増につなげることを目的とした広報動画を中心に配信することを検討します。
- ・新型コロナウイルスを踏まえた記念館の運営について、令和3年度は、国・都の方針に基づき講座・イベントの中止等を余儀なくされることがありました。現在は、「博物館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」（公益財団法人日本博物館協会）に沿って、検温・消毒といった基本的な感染対策を行いつつ、利用制限等を設

けずコロナ以前と同程度の水準の運営に戻しているところです。

- 館内の警備については、警備員に柔軟な立ち位置で警備を行うよう指導します。また、これまで休止していたガイドボランティアの配置は、10月から土・日曜日・祝日等を中心に感染予防対策を講じながら再開しました。
- 小・中学生向けの自由研究や調べもの学習の支援コーナーについては、今後の参考にさせていただきます。現在新型コロナウイルス感染症対策で制限していますが、土・日曜日・祝日および夏休み期間中はガイドボランティアが解説や質問にお答えできる環境となっています。ボランティアが対応できない場合は、現在でも職員が日常的に対応しています。小・中学生向けには、夏休み時に各校に配布している記念館情報の案内等の媒体により、漱石について知れることや質問できること、自由研究に役立つこと等の周知を図りたいと考えます。
- 企画展や講座等の催しについては、今後の参考にさせていただき、多彩な催しを検討してまいります。